

























つしん景況レポート

作州地域中小企業景気動向調査 2018.7~9月期 第27回

【特別調査—中小企業経営者と「人生100年時代」】

津山信用金庫は、作州地域内252企業の経営者のご協力のもと、ここに第27回つしん景況レポートを発刊いたします。作州地域の景況感を経営者の皆様方と共有し、皆様方のよきパートナーとして地域の繁栄に努めてまいります。

■概況:7月~9月の業況は雨曇、10月~12月の見通しは晴れ時々曇■

【地域別天気図】	2017年 7月~9月	2017年 10月~12月	2018年 1月~3月	2018年 4月~6月	今期実績 7月~9月	来期見通し 10月~12月
作州地域全体						
津山鏡野地域						
真庭地域						
美作勝央地域						

●作州地域全体では、今期(2018年7月~9月)の業況判断DIは、前期比6.1ポイント下落し、マイナス2.0となり、8期振りにマイナス水準となった。来期(2018年10月~12月)は、プラス28.2と業況感が大幅に改善する見通しとなっている。

●地域別には、津山鏡野地域は前期比1.1ポイント下落し、マイナス3.2、真庭地域は前期比11.5ポイント下落し、プラス7.7、美作勝央地域は前期比15.9ポイント下落し、マイナス8.9となった。来期は、津山鏡野地域プラス25.8、真庭地域プラス32.7、美作勝央地域プラス31.1とすべての地域で大幅に改善する見通しとなっている。

業況判断DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い	普通	悪い	DI	良い	普通	悪い
作州地域全体	4.1	25.8	46.4	27.8	▲2.0	39.7	48.8	11.5	28.2
津山鏡野地域	▲2.1	27.1	42.6	30.3	▲3.2	37.4	51.0	11.6	25.8
真庭地域	19.2	26.9	53.8	19.2	7.7	44.2	44.2	11.5	32.7
美作勝央地域	7.0	20.0	51.1	28.9	▲8.9	42.2	46.7	11.1	31.1

※DIとは、Diffusion Index の略で、「良い(または増加、上昇、楽)」と回答があった企業数の割合(%)から「悪い(または減少、下降、苦しい)」と回答があった企業数の割合(%)を差し引いた値

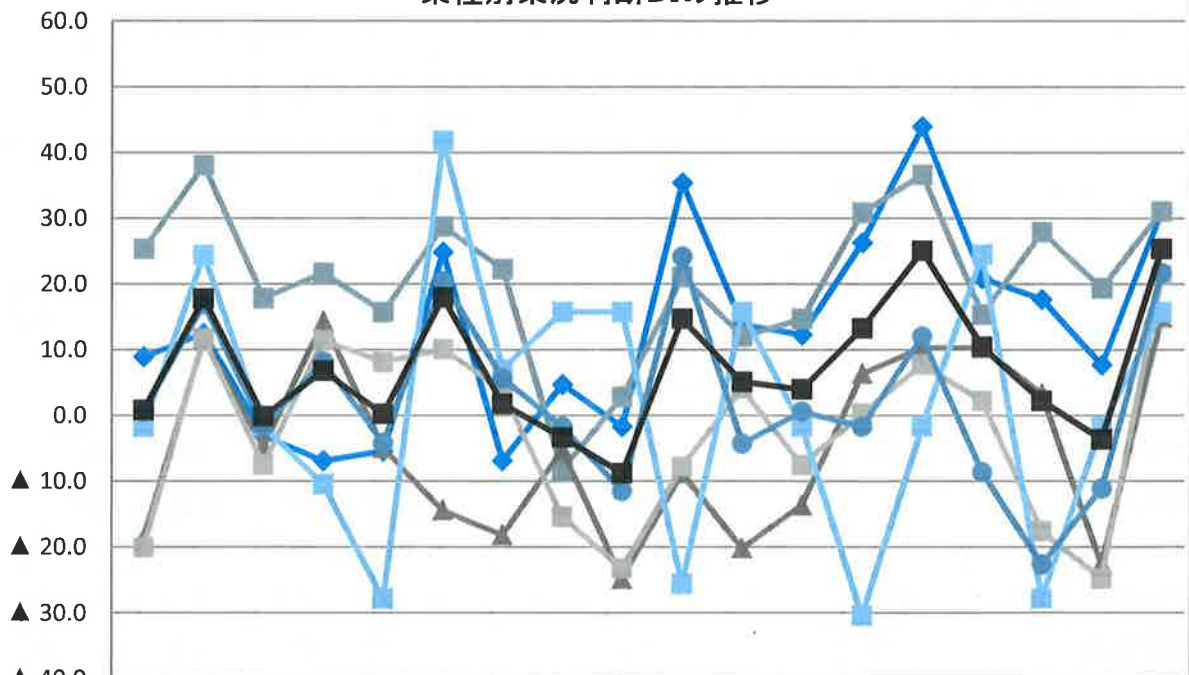
■天気図のご説明■

DI	30以上	10以上~ 30未満	0以上~ 10未満	▲10以上 0未満	▲30以上 ▲10未満	▲30未満
天気図						

■全業種総合■

【業種別 天気図】	2017年 7月～9月	2017年 10月～12月	2018年 1月～3月	2018年 4月～6月	今期実績 7月～9月	来期見通し 10月～12月
製造業						
建設業						
卸売業						
小売業						
不動産業						
サービス業						
全業種						

業種別業況判断DIの推移



	14/7月 ～9月	10月～ 12月	15/1月 ～3月	4月～ 6月	7月～ 9月	10月～ 12月	16/1月 ～3月	4月～ 6月	7月～ 9月	10月～ 12月	17/1月 ～3月	4月～ 6月	7月～ 9月	10月～ 12月	18/1月 ～3月	4月～ 6月	7月～ 9月	10月～ 12月 見通し
● 製造業	11.1	14.8	▲1.4	▲5.4	▲3.9	27.7	▲5.4	6.7	0.0	38.7	16.2	14.6	29.2	47.6	23.5	20.2	9.8	34.1
■ 建設業	28.2	41.5	20.4	24.4	18.2	31.8	25.0	▲6.8	4.7	23.8	14.3	17.1	34.0	40.0	17.8	30.9	22.0	34.2
▲ 卸売業	▲17.8	13.8	▲3.2	16.7	▲3.4	▲13.3	▲17.2	▲3.7	▲24.1	▲7.4	▲19.3	▲12.5	8.4	12.5	12.5	5.2	▲21.8	17.4
■ 小売業	▲19.2	14.0	▲6.1	13.7	10.2	12.3	5.8	▲14.3	▲22.5	▲6.4	6.0	▲6.1	2.1	9.8	4.1	▲16.6	▲24.1	24.0
● 不動産業	0.0	27.3	0.0	▲9.1	▲27.3	45.4	9.1	18.2	18.2	▲25.0	18.2	0.0	▲30.0	0.0	27.3	▲27.3	0.0	18.2
● サービス業	2.4	19.5	0.0	10.3	▲2.6	23.1	7.7	0.0	▲10.2	27.0	▲2.7	2.4	0.0	14.3	▲7.2	▲21.9	▲9.8	24.4
■ 全業種	2.6	20.3	1.6	8.8	2.0	20.5	3.6	▲1.7	▲7.4	17.1	7.1	5.9	15.6	27.9	12.7	4.1	▲2.0	28.2

全業種	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	4.1	25.8	46.4	27.8	▲ 2.0	39.7	48.8	11.5	28.2
売上	7.5	31.0	36.5	32.5	▲ 1.5	50.0	37.7	12.3	37.7
収益	2.1	29.8	37.7	32.5	▲ 2.7	45.6	43.7	10.7	34.9

- 業況判断DIは、今期(2018年7月～9月)はマイナス2.0となり、前期比6.1ポイント下落した。来期(2018年10月～12月)見通しはプラス28.2となっている。
- 売上判断DIは、今期はマイナス1.5となり、前期比9.0ポイント下落した。来期見通しはプラス37.7となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス2.7となり、前期比4.8ポイント下落した。来期見通しはプラス34.9となっている。

全業種	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	楽・過剰	変らず・適正	苦しい・不足	DI	楽・過剰	変らず・適正
資金繰り	0.4	7.5	81.3	11.1	▲ 3.6	9.1	85.7	5.2	3.9
雇用(人手過不足)	▲ 43.3	4.8	51.6	43.7	▲ 38.9	2.0	48.8	49.2	▲ 47.2
設備投資	▲ 13.1	3.3	80.5	16.2	▲ 12.9	2.1	83.8	14.1	▲ 12.0

- 資金繰り判断DIは、今期(2018年7月～9月)はマイナス3.6となり、前期比4.0ポイント下落した。来期(2018年10月～12月)見通しはプラス3.9となっている。
- 人手過不足判断DIは、今期はマイナス38.9となり、前期比4.4ポイント上昇した。来期見通しはマイナス47.2となっており、来期は過去最低のDIとなる見通しとなっている。
- 設備投資DIは、今期はマイナス12.9となり、前期比0.2ポイント上昇した。来期見通しはマイナス12.0となっている。製造業がマイナス19.5、サービス業がマイナス22.0と全業種平均を大きく下回っている。

■ 製造業 ■

製造業全般	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	20.2	30.5	48.8	20.7	9.8	43.9	46.3	9.8	34.1
売上	22.8	24.4	48.8	26.8	▲ 2.4	52.4	31.7	15.9	36.5
収益	22.7	24.4	45.1	30.5	▲ 6.1	51.2	36.6	12.2	39.0

- 製造業の業況判断DIは、今期(2018年7月～9月)は前期比10.4ポイント下落し、プラス9.8となった。来期(2018年10月～12月)見通しはプラス34.1となっている。
- 売上判断DIは、今期はマイナス2.4、来期見通しはプラス36.5となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス6.1、来期見通しはプラス39.0となっている。
- 製造業の内、その他製造業(金属製品製造業、木材・木製品製造業、農林業を除いたもの)の業況判断DIは、今期はプラス21.4、来期見通しはプラス35.7となっている。
- 7月の西日本豪雨の影響により原材料価格が高騰している。ダンボールやトレー等が値上がりしている。材料価格が数年間に亘り継続して微増しており、徐々にボディーブローのように効いてきているなどの仕入価格上昇を懸念する声が多くあった。

製造業のうち: 金属製品製造業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	23.1	42.9	57.1	0.0	42.9	28.6	64.3	7.1	21.5
売上	▲ 15.4	14.3	71.4	14.3	0.0	35.7	42.9	21.4	14.3
収益	7.7	14.3	71.4	14.3	0.0	35.7	50.0	14.3	21.4

●金属製品製造業の業況判断DIは、今期(2018年7月～9月)は前期比19.8ポイント上昇し、プラス42.9となった。来期(2018年10月～12月)見通しはプラス21.5となっている。

●売上判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス14.3となっている。

●収益判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス21.4となっている。

●業況感が悪いと回答した企業はなかった。しかし、ステンレスの仕入価格が今年の上期だけで3回上がっているが、あまり販売価格には転嫁できていないとの声があった。

製造業のうち: 木材・木製品製造業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	0.0	21.4	35.7	42.9	▲ 21.5	57.1	35.7	7.1	50.0
売上	38.4	28.6	42.9	28.6	0.0	71.4	28.6	0.0	71.4
収益	23.1	21.4	35.7	42.9	▲ 21.5	71.4	28.6	0.0	71.4

●木材・木製品製造業の業況判断DIは、今期(2018年7月～9月)は前期比21.5ポイント下落し、マイナス21.5となった。来期(2018年10月～12月)見通しはプラス50.0となっている。

●売上判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス71.4となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス21.5、来期見通しはプラス71.4となっている。

●7月の西日本豪雨の影響により、林道が破壊され、市場への原木出荷量が減少し原木価格が高騰しているとの声が複数あった。来期は、反動で出荷量が増加するとの声が複数あった。

製造業のうち: 農林業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	▲ 10.0	8.3	50.0	41.7	▲ 33.4	25.0	75.0	0.0	25.0
売上	0.0	16.7	25.0	58.3	▲ 41.6	66.7	16.7	16.7	50.0
収益	0.0	16.7	25.0	58.3	▲ 41.6	66.7	16.7	16.7	50.0

●農林業の業況判断DIは、今期(2018年7月～9月)は前期比23.4ポイントと大幅に下落し、マイナス33.4となった。来期(2018年10月～12月)見通しはプラス25.0となっている。

●売上判断DIは、今期はマイナス41.6、来期見通しはプラス50.0となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス41.6、来期見通しはプラス50.0となっている。

●夏場は特に乳牛の体調管理が大変なのに、記録的な猛暑となった今期は乳牛の食欲が減退し、搾乳量が減少しているとの声があった。また、猛暑や豪雨の影響で、農作物の出来が悪いとの声があった。

■建設業■

建設業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	30.9	36.6	48.8	14.6	22.0	41.5	51.2	7.3	34.2
売上	19.1	34.1	39.0	26.8	7.3	39.0	51.2	9.8	29.2
収益	4.8	34.1	39.0	26.8	7.3	29.3	61.0	9.8	19.5

●建設業の業況判断DIは、今期(2018年7月～9月)は前期比8.9ポイント下落し、プラス22.0となった。来期(2018年10月～12月)見通しはプラス34.2となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス7.3、来期見通しはプラス29.2となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス7.3、来期見通しはプラス19.5となっている。

●住宅建設を除いた建設業の業況判断DIは、今期はプラス22.2、来期見通しはプラス29.6となっている。

●記録的な猛暑による熱中症予防などの健康面への配慮から作業効率が悪くなっているとの声が複数あった。また、西日本豪雨災害の復旧工事が優先されているので、外注先の確保難から既存工事に遅れが生じているとの声が複数あった。

建設業のうち: 住宅建設	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	30.8	28.6	64.3	7.1	21.5	50.0	42.9	7.1	42.9
売上	30.8	42.9	28.6	28.6	14.3	28.6	64.3	7.1	21.5
収益	0.0	35.7	42.9	21.4	14.3	28.6	64.3	7.1	21.5

●住宅建設業者の業況判断DIは、今期(2018年7月～9月)は前期比9.3ポイント下落し、プラス21.5となった。来期(2018年10月～12月)の見通しはプラス42.9となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス14.3、来期見通しはプラス21.5となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス14.3、来期見通しはプラス21.5となっている。

●材料価格は、大工賃、板金、屋根材、樋等が上昇しているとの声が複数あった。住宅建売業者は、消費税増税前に土地の購入に注力しているとの声があった。

■卸売業■

卸売業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	5.2	21.7	34.8	43.5	▲ 21.8	39.1	39.1	21.7	17.4
売上	42.1	47.8	21.7	30.4	17.4	39.1	47.8	13.0	26.1
収益	47.3	47.8	21.7	30.4	17.4	34.8	52.2	13.0	21.8

●卸売業の業況判断DIは、今期(2018年7月～9月)は前期比27.0ポイント大幅に下落し、マイナス21.8となった。来期(2018年10月～12月)見通しはプラス17.4となっている。

●売上判断DIは、今期はプラス17.4、来期見通しはプラス26.1となっている。

●収益判断DIは、今期はプラス17.4、来期見通しはプラス21.8となっている。

●食料品卸売業者からは、西日本豪雨被害の影響で物流が滞り、自動販売機の売れ筋商品(大手炭酸飲料)が品切れとなったので機会損失が発生した。また、得意先の宿泊業者(温泉旅館など)で予約キャンセルが起きたので、販売数量が減少しているとの声があった。

■小売業■

小売業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	▲ 16.6	18.5	38.9	42.6	▲ 24.1	40.7	42.6	16.7	24.0
売上	▲ 6.3	33.3	22.2	44.4	▲ 11.1	59.3	29.6	11.1	48.2
収益	▲ 20.8	29.6	27.8	42.6	▲ 13.0	51.9	40.7	7.4	44.5

●小売業の業況判断DIは、今期(2018年7月～9月)は前期比7.5ポイント下落し、マイナス24.1となった。来期(2018年10月～12月)見通しはプラス24.0となっている。

●売上判断DIは、今期はマイナス11.1、来期見通しはプラス48.2となっている。

●収益判断DIは、今期はマイナス13.0、来期見通しはプラス44.5となっている。

●記録的な猛暑による野菜の高騰と西日本豪雨による商品供給が不足していることに加え、ドラッグストアが野菜や日配品の販売を強化していることで集客が落ち込んだとの声があった。

小売業のうち: 自動車小売業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI区分	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず
業況	▲ 14.3	26.7	40.0	33.3	▲ 6.6	46.7	46.7	6.7	40.0
売上	▲ 7.1	40.0	40.0	20.0	20.0	60.0	33.3	6.7	53.3
収益	▲ 28.5	40.0	33.3	26.7	13.3	53.3	40.0	6.7	46.6

- 自動車小売業の業況判断DIは、今期(2018年7月～9月)は前期比7.7ポイント上昇し、マイナス6.6となった。来期(2018年10月～12月)見通しはプラス40.0となっている。
- 売上判断DIは、今期はプラス20.0、来期見通しはプラス53.3となっている。
- 収益判断DIは、今期はプラス13.3、来期見通しはプラス46.6となっている。
- 今年の夏は特に記録的な猛暑であったことに加え、ゲリラ豪雨を懸念し、バイクに乗る人が少なかったとの声があった。県南部の豪雨による車両の代車需要が高まっており、レンタカー部門が伸長しているとの声があった。

■不動産業■

不動産業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	▲ 27.3	18.2	63.6	18.2	0.0	27.3	63.6	9.1	18.2
売上	▲ 45.4	9.1	72.7	18.2	▲ 9.1	36.4	54.5	9.1	27.3
収益	▲ 27.3	9.1	72.7	18.2	▲ 9.1	36.4	45.5	18.2	18.2

- 不動産業の業況判断DIは、今期(2018年7月～9月)は前期比27.3ポイントと大幅に上昇し、ゼロとなった。来期(2018年10月～12月)見通しはプラス18.2となっている。
- 売上判断DIは、今期はマイナス9.1、来期見通しはプラス27.3となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス9.1、来期見通しはプラス18.2となっている。
- 商品在庫が減少している。一方で、来年の消費税増税を商機とした宅地の造成が津山市内で増加しているとの声があった。

■サービス業■

サービス業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	▲ 21.9	19.5	51.2	29.3	▲ 9.8	31.7	61.0	7.3	24.4
売上	▲ 19.5	34.1	26.8	39.0	▲ 4.9	53.7	36.6	9.8	43.9
収益	▲ 26.8	31.7	34.1	34.1	▲ 2.4	51.2	39.0	9.8	41.4

- サービス業の業況判断DIは、今期(2018年7月～9月)は前期比12.1ポイント上昇し、マイナス9.8となった。来期(2018年10月～12月)見通しはプラス24.4となっている。
- 売上判断DIは、今期はマイナス4.9、来期見通しはプラス43.9となっている。
- 収益判断DIは、今期はマイナス2.4、来期見通しはプラス41.4となっている。
- 7月の西日本豪雨の影響で観光業等では、風評被害でキャンセルが多くなっているとの声が多くあった。一方で、バス会社ではJR代行バスの運行による特需があったとの声が複数あった。

サービス業のうち： 医療福祉業	前期	今期実績				来期見通し			
DI区分		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	▲ 40.0	10.0	60.0	30.0	▲ 20.0	10.0	70.0	20.0	▲ 10.0
売上	▲ 20.0	30.0	40.0	30.0	0.0	40.0	50.0	10.0	30.0
収益	▲ 30.0	30.0	40.0	30.0	0.0	40.0	50.0	10.0	30.0

- 医療福祉業の業況判断DIは、今期(2018年7月～9月)は前期比20.0ポイント上昇し、マイナス20.0となった。来期(2018年10月～12月)見通しはマイナス10.0となっている。
- 売上判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス30.0となっている。
- 収益判断DIは、今期はゼロ、来期見通しはプラス30.0となっている。
- 7月の西日本豪雨や記録的な猛暑の影響で野菜などの食材価格が上昇し、収益が悪化しているとの声が複数あった。働き方改革では、病院業界全体で医師や看護師の勤務時間の対応をどのようにしたらよいか難しさを感じているとの声が複数あった。

■ 昨年同期比較売上高・収益 ■

業種別	増加	変わらず	減少	DI
製造業	29.3	46.3	24.4	4.9
建設業	39.0	34.1	26.8	12.2
卸売業	30.4	26.1	43.5	▲ 13.1
小売業	31.5	33.3	35.2	▲ 3.7
不動産業	18.2	72.7	9.1	9.1
サービス業	43.9	26.8	29.3	14.6
総計	33.3	37.7	29.0	4.3

業種別	増加	変わらず	減少	DI
製造業	30.5	50.0	19.5	11.0
建設業	31.7	41.5	26.8	4.9
卸売業	21.7	34.8	43.5	▲ 21.8
小売業	24.1	42.6	33.3	▲ 9.2
不動産業	18.2	72.7	9.1	9.1
サービス業	31.7	36.6	31.7	0.0
総計	28.2	44.4	27.4	0.8

業種別	増加	変わらず	減少	DI
卸売業	8.7	87.0	4.3	4.4
小売業	24.1	72.2	3.7	20.4
総計	19.5	76.6	3.9	15.6

- ① 昨年同期(2017年7月～9月)比較売上高DIは、全業種ではプラス4.3となった。
 ② 昨年同期比較収益DIは、卸売業、小売業でマイナスとなったが、全業種ではプラス0.8となった。
 ③ 昨年同期比較販売価格DIは、卸売業プラス4.4、小売業プラス20.4となった。

■ 販売価格 ■

販売価格DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	上昇	変わらず	下降	DI	上昇	変わらず	下降
製造業	14.0	20.7	76.8	2.4	18.3	8.5	89.0	2.4	6.1
建設業	▲ 9.5	12.2	82.9	4.9	7.3	7.3	92.7	0.0	7.3
卸売業	15.8	8.7	91.3	0.0	8.7	4.3	91.3	4.3	0.0
小売業	12.5	14.8	85.2	0.0	14.8	13.0	87.0	0.0	13.0
不動産業	▲ 9.1	9.1	81.8	9.1	0.0	27.3	63.6	9.1	18.2
サービス業	14.6	2.4	97.6	0.0	2.4	7.3	90.2	2.4	4.9
総計	8.7	13.5	84.5	2.0	11.5	9.5	88.5	2.0	7.5

● 今期の販売価格DIは、全業種でプラス11.5となった。来期見通しは、全業種でプラス7.5となっている。卸売業、小売業、サービス業で販売価格が「下降」と回答する企業はなかった。なお、卸売業は、4期連続で「下降」と回答する企業はなかった。

■ 仕入価格 ■

仕入価格DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	上昇	変わらず	下降	DI	上昇	変わらず	下降
製造業	44.3	41.5	58.5	0.0	41.5	17.1	78.0	4.9	12.2
建設業	19.0	31.7	68.3	0.0	31.7	17.1	82.9	0.0	17.1
卸売業	15.8	26.1	73.9	0.0	26.1	8.7	87.0	4.3	4.4
小売業	25.0	24.1	75.9	0.0	24.1	16.7	79.6	3.7	13.0
不動産業	▲ 27.3	9.1	72.7	18.2	▲ 9.1	0.0	90.9	9.1	▲ 9.1
サービス業	29.3	34.1	65.9	0.0	34.1	17.1	82.9	0.0	17.1
総計	27.9	32.1	67.1	0.8	31.3	15.5	81.3	3.2	12.3

● 今期の仕入価格DIは、全業種でプラス31.3となり、4期連続で20ポイントを上回る水準となった。金属製品製造業がプラス42.9、木材木製品製造業がプラス50.0と製造業で仕入価格が上昇した企業が多くなっている。

■在庫■

在庫DI	前期	今期実績				来期見通し			
		業種別	DI	過剰傾向	適正	不足傾向	DI	過剰傾向	適正
製造業	▲ 3.8	8.5	76.8	14.6	▲ 6.1	4.9	86.6	8.5	▲ 3.6
建設業	2.4	9.8	90.2	0.0	9.8	7.3	92.7	0.0	7.3
卸売業	10.5	8.7	91.3	0.0	8.7	4.3	95.7	0.0	4.3
小売業	16.7	20.4	74.1	5.6	14.8	11.1	83.3	5.6	5.5
不動産業	▲ 54.5	9.1	36.4	54.5	▲ 45.4	0.0	72.7	27.3	▲ 27.3
総計	1.0	11.8	78.2	10.0	1.8	6.6	87.2	6.2	0.4

- 在庫DIは、今期は全業種で約8割が「適正」と回答し、全業種でプラス1.8となった。来期見通しは、全業種で約9割が「適正」と回答し、全業種でプラス0.4となっている。
- 不動産業では、今期は前回見通し（マイナス36.4）を下回り、マイナス45.4となり、2期連続で「不足傾向」と回答した割合が半数を超えている。

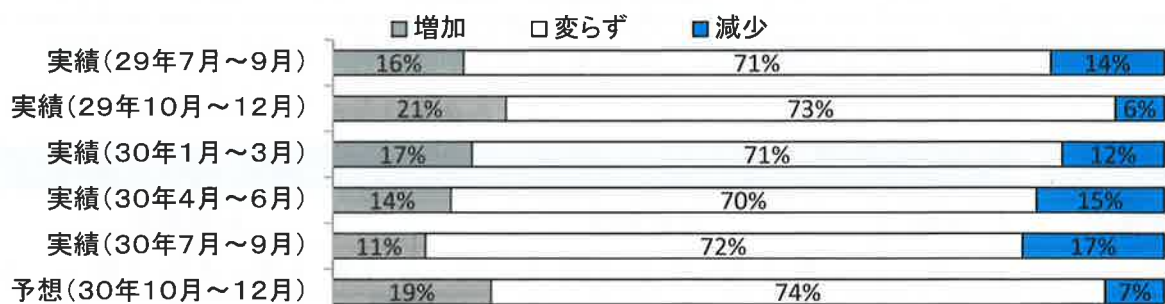
■受注残■

受注残DI	前期	今期実績				来期見通し			
		業種別	DI	増加	変わらず	減少	DI	増加	変わらず
製造業	16.4	29.3	58.5	12.2	17.1	45.1	47.6	7.3	37.8
建設業	14.3	41.5	41.5	17.1	24.4	34.1	58.5	7.3	26.8
総計	15.8	33.3	52.8	13.8	19.5	41.5	51.2	7.3	34.2

- 製造業の受注残DIは、今期は前期比0.7ポイント上昇し、プラス17.1となった。来期見通しは、プラス37.8となっている。
- 建設業の受注残DIは、今期は前期比10.1ポイント上昇し、プラス24.4となった。来期見通しは、プラス26.8となっている。

■雇用面の動き■

前期比残業時間



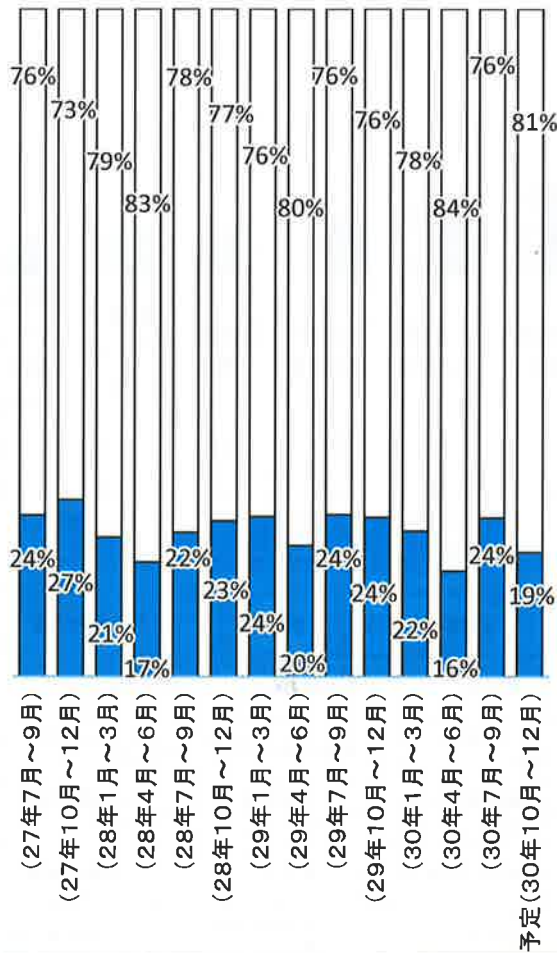
人手実績と予想



■借入金の動き・難易度■

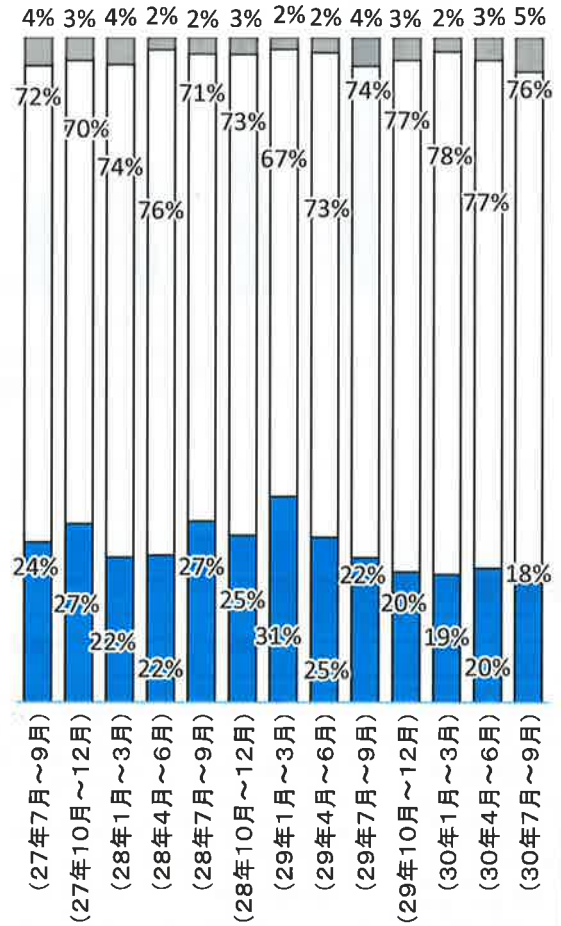
借入金の動き

■借入した(予定あり) □借入しない(予定なし)



民間金融機関からの借入金難易度

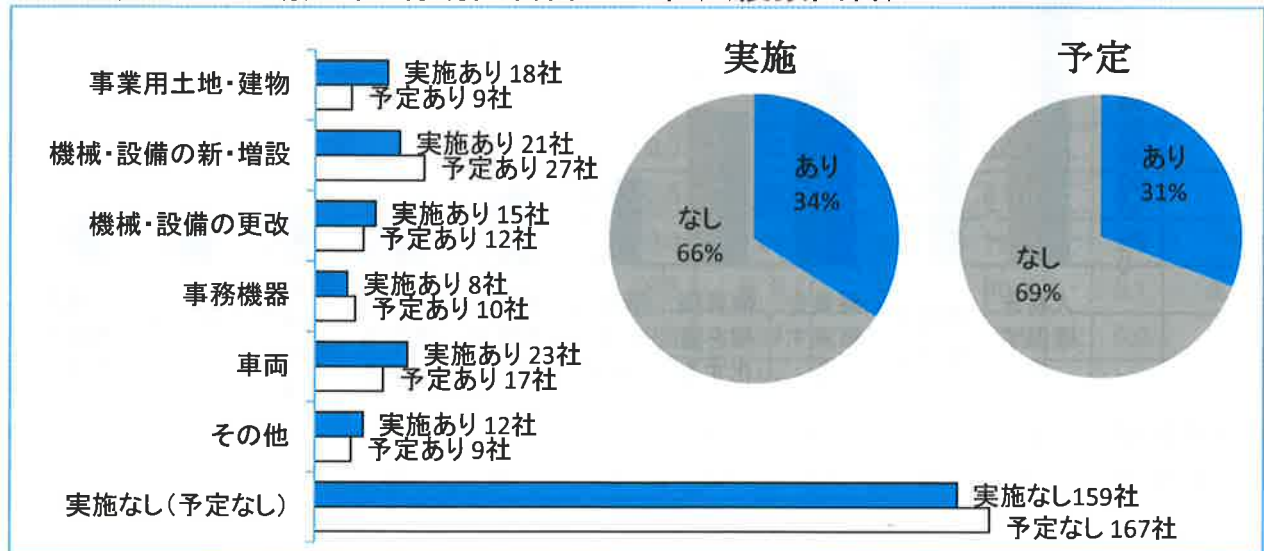
■容易 □変わらない □難しい



●2016年1月にマイナス金利政策が導入されたが、借入をした企業の割合は、今期(2018年7月～9月)24%と依然として低い水準となっている。また、借入の難易度は、『容易』と回答した企業の割合が前期比2%下落し、18%となり、『難しい』は前期比2%上昇し、5%となっている。

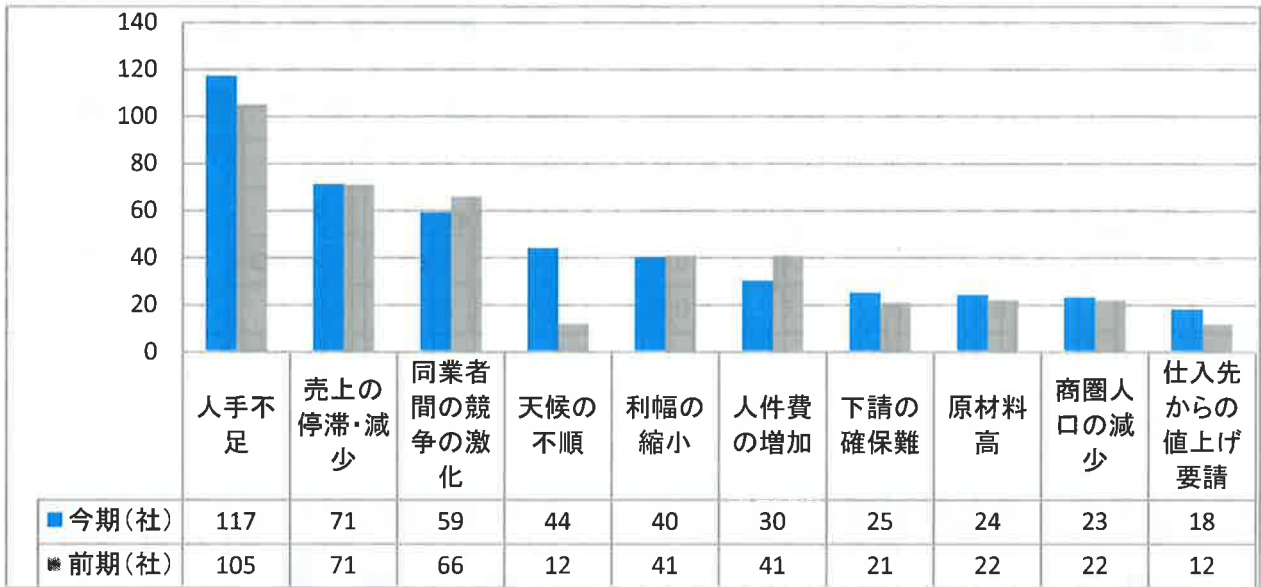
■設備投資の実施(30年7月～9月)と予定(30年10月～12月)■

●全業種(除く不動産業:有効回答計241社)(複数回答)



■ 経営上の問題点 ■

● 全業種(複数回答)

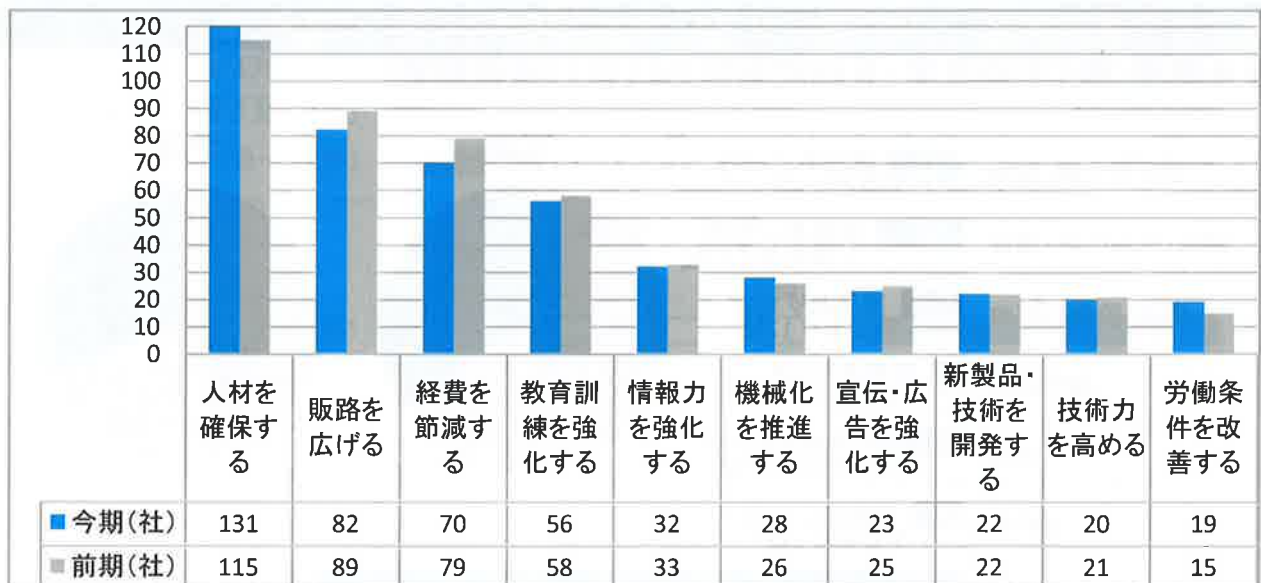


● 業種別(複数回答)

	製造業	%	建設業	%	卸売業	%	小売業	%	不動産業	%	サービス業	%
1位	人手不足	18.6	人手不足	26.6	売上の停滞・減少	23.5	人手不足	17.3	利幅の縮小	20.0	人手不足	24.5
2位	原材料高	12.4	下請の確保難	18.1	同業者間の競争の激化	11.8	売上の停滞・減少	12.9	商品物件の不足	20.0	売上の停滞・減少	12.7
3位	売上の停滞・減少	10.3	同業者間の競争の激化	11.7	天候の不順	9.8	同業者間の競争の激化	12.9	売上の停滞・減少	16.0	同業者間の競争の激化	9.8
4位	工場・機械の狭小・老朽化	8.2	天候の不順	9.6	人手不足	7.8	商圏人口の減少	12.2	人手不足	12.0	人件費の増加	7.8
5位	天候の不順	7.2	材料価格の上昇	9.6	利幅の縮小	7.8	利幅の縮小	7.9	同業者間の競争の激化	12.0	材料価格の上昇	7.8

■ 当面の重点経営施策 ■

● 全業種(複数回答)



●業種別(複数回答)

	製造業	%	建設業	%	卸売業	%	小売業	%	不動産業	%	サービス業	%
1位	販路を広げる	18.7	人材を確保する	29.4	販路を広げる	27.3	人材を確保する	17.0	情報力を強化する	29.2	人材を確保する	29.1
2位	人材を確保する	18.7	技術力を高める	19.6	人材を確保する	12.7	経費を節減する	14.1	宣伝・広告を強化する	16.7	販路を広げる	16.5
3位	新製品・技術を開発する	10.8	経費を節減する	14.7	品揃えを改善する	12.7	教育訓練を強化する	12.6	販路を広げる	12.5	経費を節減する	11.7
4位	経費を節減する	9.4	情報力を強化する	10.8	情報力を強化する	9.1	品揃えを改善する	11.9	人材を確保する	12.5	教育訓練を強化する	11.7
5位	機械化を推進する	8.9	販路を広げる	8.8	経費を節減する	7.3	売れ筋商品を取り扱う	9.6	新しい事業を始める	8.3	宣伝・広告を強化する	7.8

■調査員の調査コメントから■

○今期の業況判断D Iは、7月の西日本豪雨や記録的な猛暑などの影響でマイナス2.0と平成28年7～9月期以来のマイナス水準となった。前回調査時の見通しプラス20.4、前年同期実績プラス15.6、さらには前期D Iプラス4.1を下回っている。業種別には、前回調査時の見通し対比では不動産業を除きすべての業種で下回っており、卸売業、小売業、サービス業でマイナス水準となっている。地域別には、前回調査時の見通し対比ではすべての地域で下回っており、津山鏡野と美作勝央地域でマイナス水準となっている。

○マイナス水準となった卸売業や小売業では、西日本豪雨被害の影響で物流が停滞したことで売れ筋商品が不足した。記録的な猛暑で顧客の食品購買意欲が減退し外出を控えていたとの声が多くあった。また、サービス業のうち観光業では西日本豪雨災害による風評被害からキャンセルが増加しているとの声が多くあった。さらに、サービス業のうち病院では記録的な猛暑の影響で外来患者が減少している。高齢者の熱中症患者が増加しているとの声があった。

○雇用判断D Iは、マイナス38.9と前期まで3期連続でマイナス40を超えていた状況下からの一服感はあるが、「不足」と回答のあった企業の割合は5期連続で40ポイントを超えており、依然として深刻な人手不足、人財不足は継続している。

○多くの経営者は働き方改革での法改正による罰則規定に敏感となっており、年次有給休暇の取得や時間外労働の上限規制に頭を痛めているとの声が多数あった。また、働き方改革としては、製造業では勤務時間の見直しを計画し試行しているとの声が複数あった。具体的には、会社内の一部部門に対し、フレックスタイム制を導入している。一部社員に時差出勤を導入し、稼働率向上に努めているなどの声が複数あった。

○仕入価格判断D Iはプラス31.3（前期プラス27.9）、販売価格判断D Iはプラス11.5（前期プラス8.7）となり、前期を上回る高い水準となっている。仕入価格の上昇要因としては運賃コストの上昇を指摘する声が聞かれた。一方で、仕入価格の上昇を販売価格にすぐに転嫁できないとの声が複数あった。

■調査要領■

1. 調査対象

当金庫営業エリア内の中小企業

2. 調査時期

2018年8月23日～9月7日

3. 調査方法

当金庫職員による訪問聞き取り調査

4. 分析方法

D Iを中心に分析

5. 季節変動について

業況判断D Iは、毎年1～3月期に低下し、4～6月期に上昇するという季節的な変動（季節変動）がありますが、当金庫の分析においては季節変動の調整（季節調整）は行っておりません。

※ 本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。
また、掲載資料は正確性・安全性を保証するものではありません。

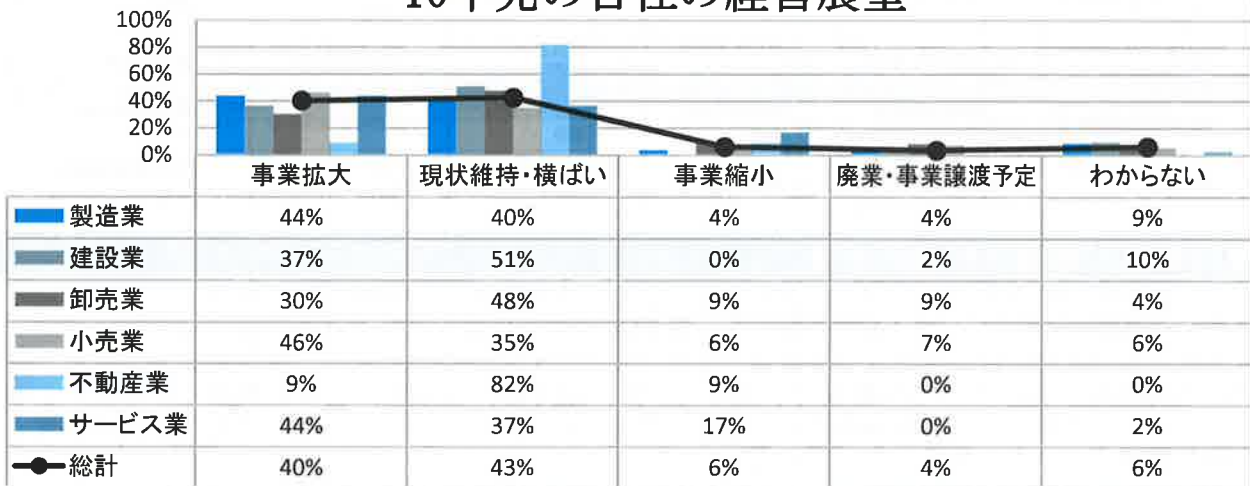
■調査対象■

地区別	企業数	比率	従業員規模別	企業数	比率
津山鏡野地域	155	61.5%	1～4人	57	22.6%
真庭地域	52	20.6%	5～9人	55	21.8%
美作勝央地域	45	17.9%	10～19人	55	21.8%
合計	252	100.0%	20～29人	30	11.9%
業種別	企業数	比率	30～39人	17	6.7%
製造業	82	32.5%	40～49人	12	4.8%
建設業	41	16.3%	50～99人	12	4.8%
卸売業	23	9.1%	100～199人	10	4.0%
小売業	54	21.4%	200～300人	4	1.6%
不動産業	11	4.4%	合計	252	100.0%
サービス業	41	16.3%			
合計	252	100.0%			

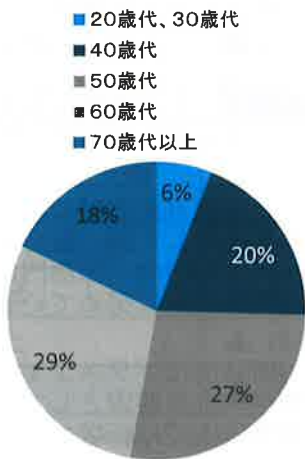
☆☆☆ 特別調査 ☆☆☆
特別調査-「中小企業経営者と「人生100年時代」

問1. 社長（代表者）は、今後の10年先の自社の経営について、どのように展望していらっしゃいますか。併せて、現在の社長（代表者）の年齢階層をお答えください。

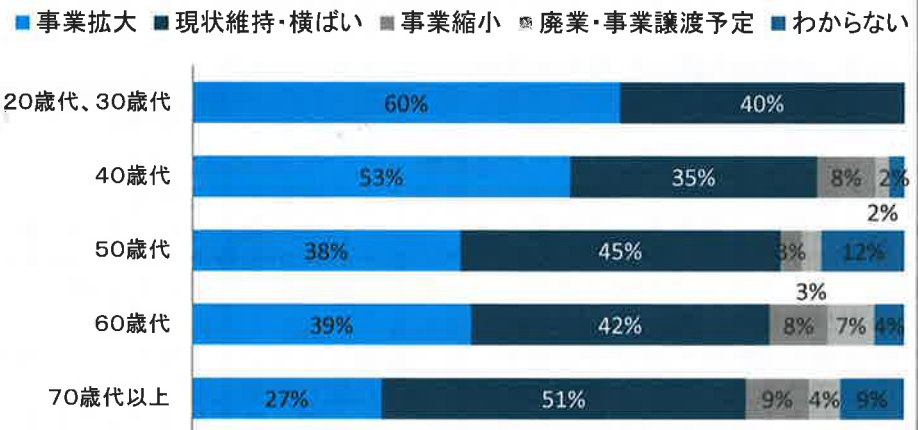
10年先の自社の経営展望



年齢層の割合



年齢層別の経営展望



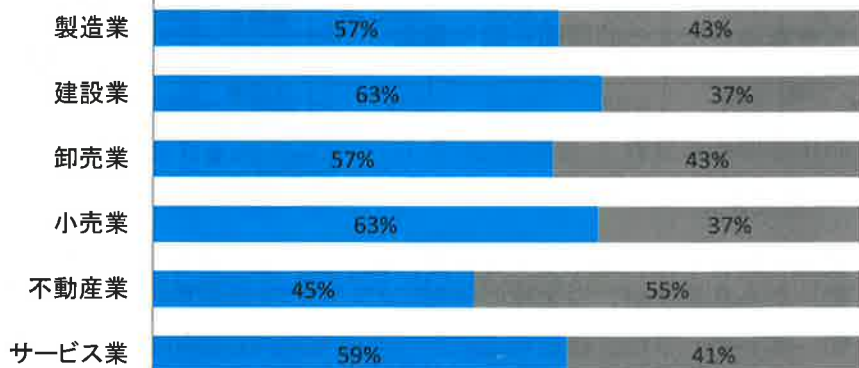
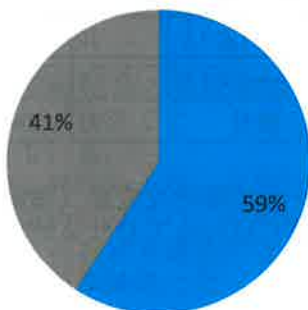
- 10年先の自社の経営展望は、「現状維持・横ばい」が43%と最も高く、「事業拡大」が40%で続いている。
- 社長の年齢層は、「60歳代」が29%と最も高く、「50歳代」が27%で続いている。
- 社長の年齢層が若いほど「事業拡大」と回答する割合が高くなっている。

問2. 「人生100年時代」という言葉が生まれるなど、健康寿命の長期化に社会的関心が高まる中で、今後、経営者が現役で活躍する年齢は高まっていくもの考えられます。そのような中、社長（代表者）は、経営者としていつ頃まで現役を続けたいとお考えですか。

いつ頃まで現役を続けるか

■ 具体的な年齢の目途がある ■ 具体的な年齢の目途はない

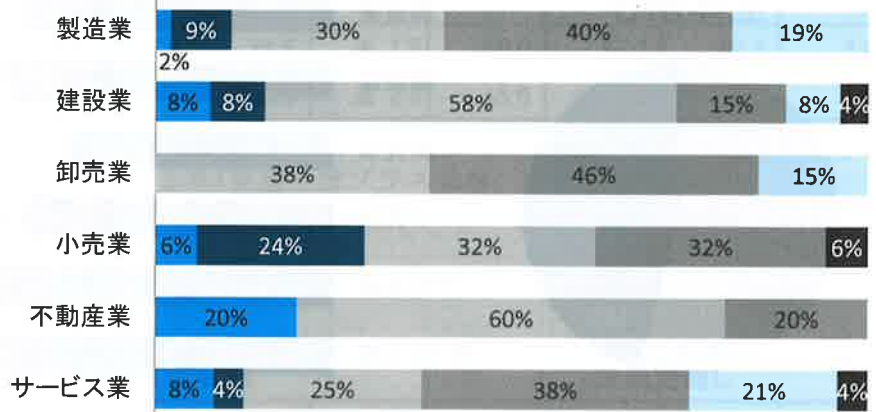
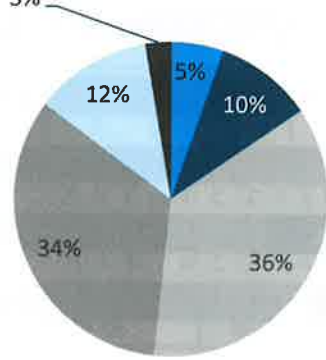
全体割合



現役でいる具体的な年齢の目途

■ 60歳未満 ■ 60～64歳 ■ 65～69歳 ■ 70～74歳 ■ 75～79歳 ■ 80歳以上

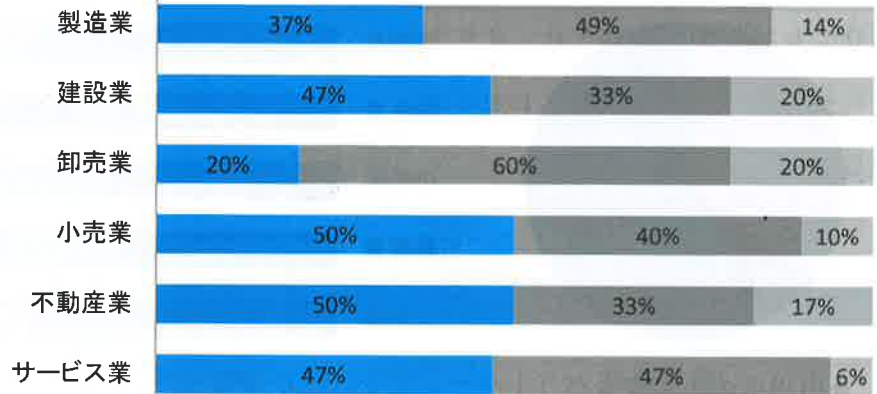
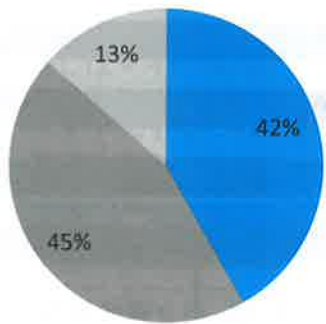
全体割合



現役でいる具体的な年齢の目途がない場合

■ 健康が続く限り生涯現役 ■ 後継者に托せるようになるまでは現役 ■ まったく考えていない

全体割合



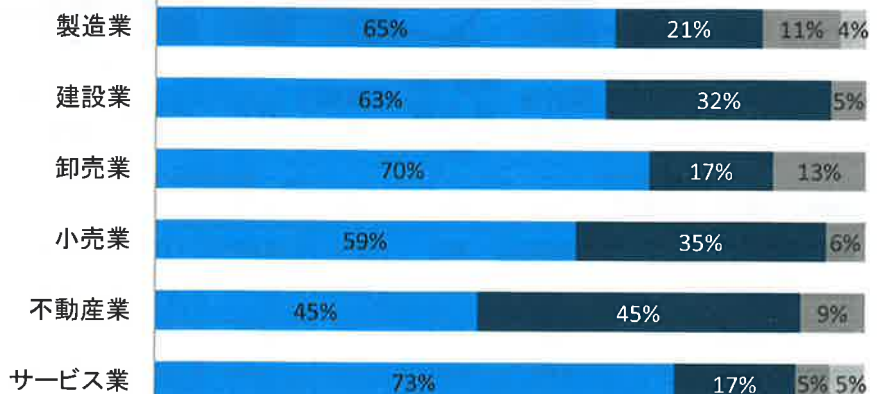
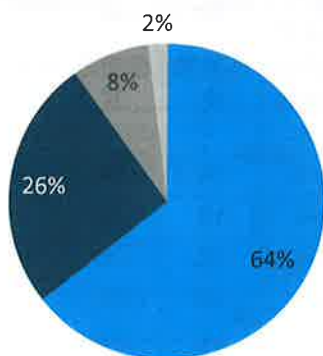
- 現役を続ける時期に関して「具体的な年齢の目途がある」と回答した割合は59%となっている。一方、「具体的な年齢の目途はない」と回答した割合は41%となっている。
- 具体的な年齢の目途としては、「65～69歳」が36%と最も高く、「70～74歳」が34%で続いている。
- 具体的な年齢の目途がない場合は、「後継者に托せるようになるまでは現役」が45%と最も高く、「健康が続く限り生涯現役」が42%で続いている。

問3. 社長（代表者）は、経営者を引退した後の生活資金についてどのようにお考えですか。

引退後の生活資金

■ 十分だと思う ■ まだ不十分だと思う ■ まだ考えていない ■ 引退しない

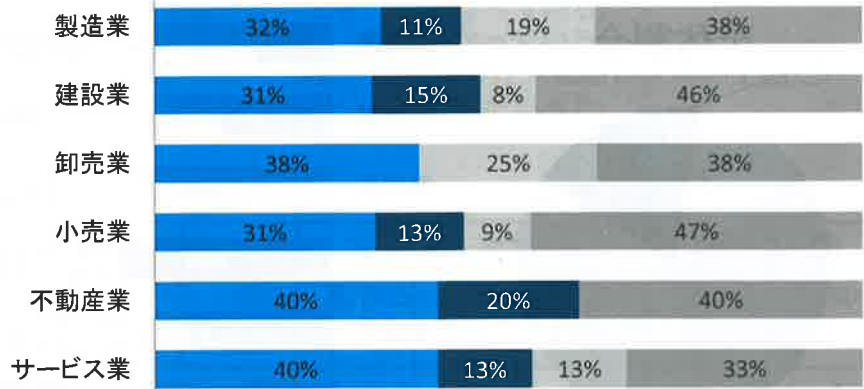
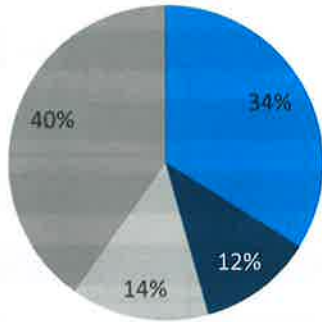
全体割合



十分だと思う理由

■ 貯蓄・資産がすでに十分ある ■ 会社からの退職金が見込める ■ 年金・保険が見込める ■ 何とかなる

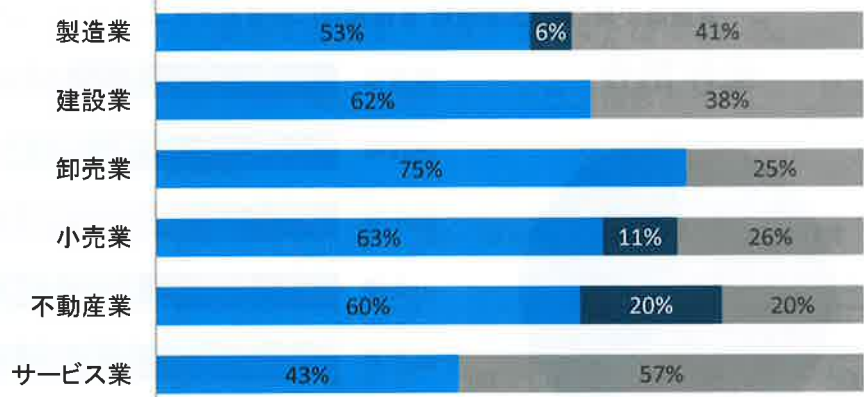
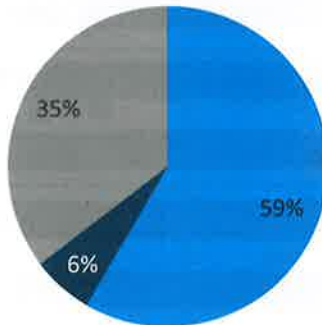
全体割合



まだ不十分だと思う理由

■ 貯蓄・資産が十分ではない ■ 年金・保険が見込めない ■ 何となく不安である

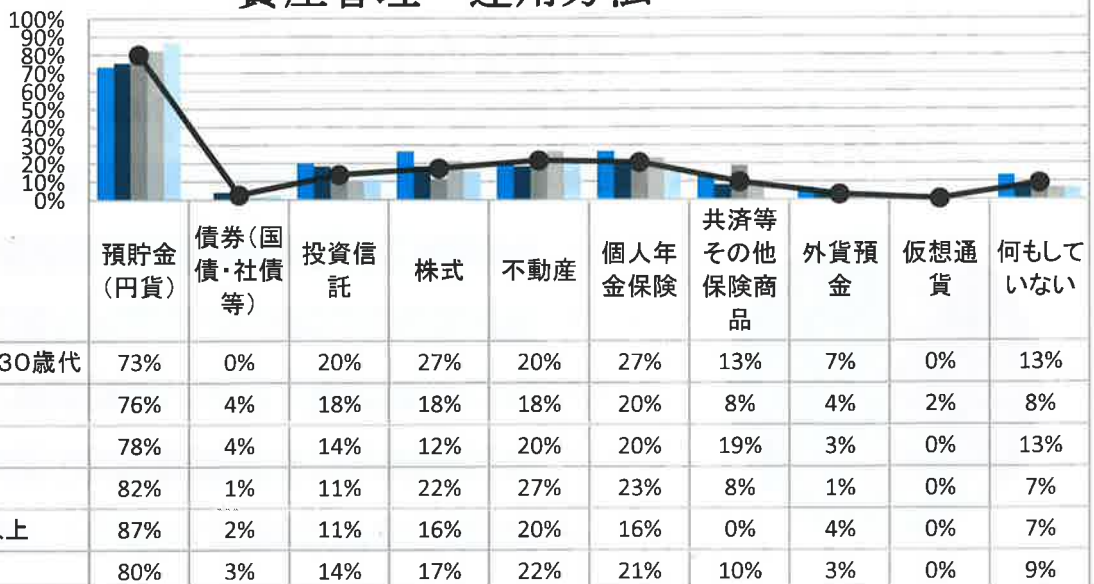
全体割合



- 引退後の生活資金が「十分だと思う」は64%、「まだ不十分だと思う」が26%となっている。
- 「十分だと思う」理由は、「何とかなる」が40%と最も高く、「貯蓄・資産がすでに十分ある」が34%で続いている。
- 「まだ不十分だと思う」理由は、「貯蓄・資産が十分ではない」が59%となっている。

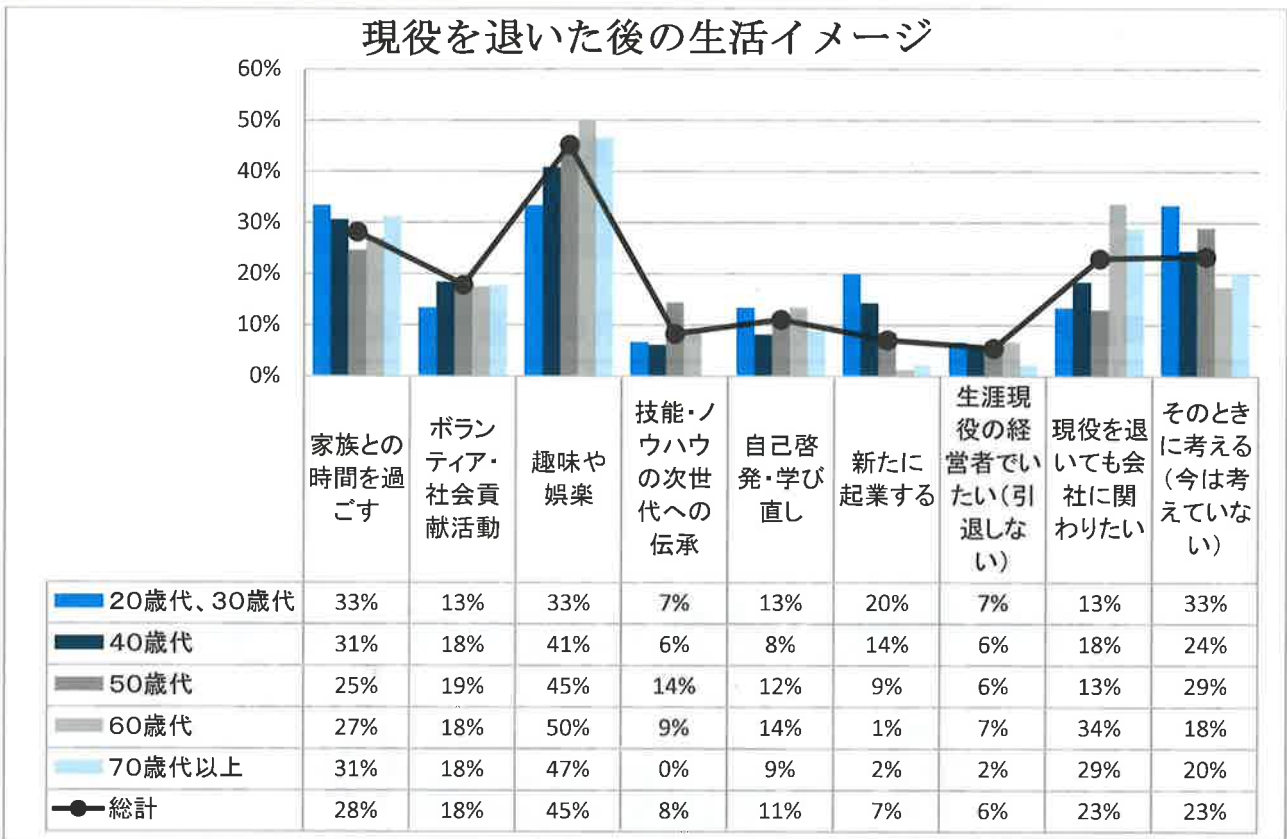
問4. 「人生100年時代」を見据えて、社長（代表者）は、個人としてどのような資産管理・運用をしていらっしゃるでしょうか。（複数回答）

資産管理・運用方法



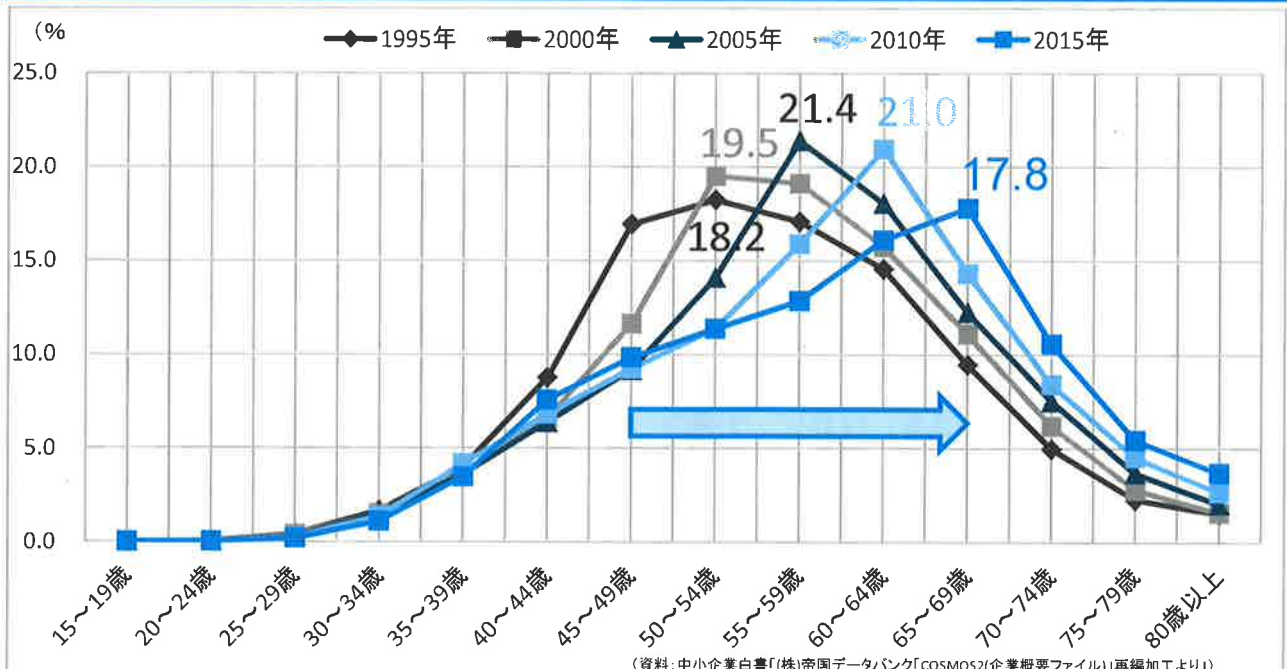
- 資産管理・運用の方法は、「預貯金」、「不動産」、「個人年金保険」と続いている。
- 「20歳代、30歳代」を他年代と比較すると「預貯金」の割合が低く、「株式」、「投資信託」、「個人年金保険」の割合が高くなっている。
- 「仮想通貨」で資産管理・運用しているとの回答はほとんどなかった。

問5. 「人生100年時代」を見据えて、社長（代表者）は、現役を退いた後の生活イメージについて、描いているものはありますか。（複数回答）



- 引退後の生活イメージとして、「趣味や娯楽」が45%で最も高く、「家族との時間を過ごす」、「現役を退いても会社に関わりたい」、「そのときに考える」と続いている。
- 年齢層があがるにつれて「趣味や娯楽」の回答割合が増加している。

(参考) 年代別に見た中小企業の経営者の年齢分布



中小企業の経営者年齢のピークは、1995年では、50～54歳であるが、2000年代に推移するにつれ、年齢層のピークもシフトし、2015年では、65～69歳となっている。

作州地域の活性化応援信用金庫



作州地域のパートナー・よろず相談信用金庫



津山信用金庫



岡山県津山市山下30-15
0868-22-4121
地域創生部
(担当：杉山、岡部)